

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 22-40
補助事業名 平成22年度 理科実験学習支援システムによる青少年の育成補助事業
補助事業者名 財団法人 日本科学技術振興財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

子供達の理科離れが危惧されている中、科学実験等で身近に科学に触れられる科学系博物館の重要性が再認識されつつある。

科学技術館（年間来館者60万人）は開館以来、体験型展示に注力し、その一環として、米村でんじろう氏の実験ショーをはじめとして、小中学生が楽しく体験・学習できる実験演示やワークショップを数多く開発し実施してきた。この貴重なコンテンツを来館時の体験にとどめることなく、自宅に帰った後も（家族と一緒に）実験等を復習し、実験の背景にある原理・理論や関連事項を学習できる「理科実験体験学習支援システム」を開発・運用することで科学への興味に応え、青少年の健やかな成長を育むことで、理系人材育成の一助とする。

本システムを有効に活用することで、学校で行われなくなりつつある実験をじっくり学習することが可能となる。教科書に載っている言葉や写真では分からない動きも見ることが出来ると共に、現象の解説や応用技術を合わせて見る事でより理解を深めることが可能となる。

(2) 実施内容

科学技術館の常設展示室（8室）で行っている実験、ワークショップについて、自宅のパソコンで復習できるウェブサイト「お家で復習！科学技術館ワークショップムービー集」（<http://obenkyo.jsf.or.jp/>）を2年計画で開発し、運用する。ウェブサイトには以下のコンテンツを掲載する。

- ・実験等のビデオ動画
- ・背景にある原理、理論等の解説
- ・身近で利用されている応用例、関連技術情報等の紹介

初年度の平成22年度において、全体のシステム開発と3室分のコンテンツ作成を行い、平成23年度に残りの5室分のコンテンツ作成を行う。平成22年度から部分運用を開始し、平成23年度末の完成を予定している。

2 予想される事業実施効果

青少年に対し健やかな成長を育むことを目的とした「理科実験学習支援システム」を開発することにより、科学技術に触れる機会を提供し、科学技術に関する関心を促し理解の促進を図る。本システムを体験した青少年の高まった関心と知識は、青少年

の理科離れ対策や理系人材育成に寄与する。

3 本事業により作成した印刷物等

ログインカード

「お家で復習！科学技術館ワークショップムービー集」(<http://obenkyo.jsf.or.jp/>)

タイトル右横に表示

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人 日本科学技術振興財団

(コウエキザイダンホウジン ニホンカガクギジュツシンコウザイダン)

住所： 〒102-0091

東京都千代田区北の丸公園2番1号

代表者： 代表理事 理事長 勝俣 恒久 (カツマタ ツネヒサ)

担当部署： 情報システム開発部 (ジョウホウシステムカイハツブ)

担当者名： 主任 小林 成稔 (コバヤシ ナリトシ) / 中村 潤 (ナカムラ ジュン)

電話番号： 03-3212-8472

FAX： 03-3212-8596

E-mail： kobayasi@jsf.or.jp / jun@jsf.or.jp

URL： <http://www.jsf.or.jp/>